

連絡機関：ILO東京事務局

○ Dr. Nathan Keyfitz: The Ford Foundation, P. O. Box 2270, Djakarta, Indonesia

年月日：1964年5月28日

用務：人口分析における電子プロセスについての日本における関心についての視察

パキスタンの人口震動に関する全国セミナー

1964年3月10日から13日にかけてパキスタンの Lahore (Panjab University) において、パキスタン家族計画連盟 (Family Planning Association of Pakistan) 主催の下に「パキスタンの人口震動に関する全国セミナー (National Seminar on Pakistan's Population Quake)」が開催され、本研究所人口資質部長篠崎信男技官がこれに招かれて出席した。その概況は次のとおりである。

「パキスタンの人口震動に関する全国セミナー」の概況

このセミナーは、1964年3月10～13日にかけてパキスタンのラホールにおいて、パキスタン家族計画連盟主催および政府の後援の下に開催されたもので、ゲストとして筆者（篠崎）も招待されたものである。ほかにネパールからも来ており、オブザーバーとしては英国、米国からも10数名の参加者があった。

大会はパンジャブ大学の大ホールでの開会式に始まったが、これにはパキスタンの Muhammad Ayub Khan 大統領も出席された。式は開会のことばのあと、Moslem の僧りょのいかにも幽玄妙律なる経歌が歌われ、国歌を一同起立して聞き、連盟会長 Begum M. Salim Khan 女史のあいさつがあった。このなかで家族計画の重要性を強調しながらも、これが女性にとって最も大切な死活問題だと叫び、しかも男性の協力がなければ成功しないことを告げ、大統領は男性だからぜひ協力して欲しいと訴えていた。このあと Ayub 大統領が祝辞を述べたのであるが、このなかで人口問題を強調し、さきの1958年に宣言した “Over-Population was Pakistan's No. 1 Problem” を再度述べ、確認していることが拍手をあげていた。

式が終わってのち、われわれ外国人数名は大統領以下、保健大臣、教育大臣といった高位高官の人々と親しく謁見が許され、われわれの旅の労をねぎらってくれた。その席上、筆者は保健大臣と種々話しをしたが、この家族計画については、政府は第三5か年計画のなかで最も重要なものとして取り上げていると言っていたが、予算は日本のように独立して「家族計画」として予算化しているのではなく “social welfare” のなかに一緒に組み入れられているということである。

午後から総会が開かれたが、ここでは Alhaj Abdullah Zaheer-ud-din Lal Mia という日本で言えば厚生大臣と労働大臣とを兼務した大臣が議長となって報告が行なわれた。最初は Islamic 中央研究所長である Dr. Fazalur Rahman が “Religion and Planned Parenthood in Pakistan” と題して述べたが、これには多くの質問と議論が続出した。つまり、パキスタンの国教であるイスラムを若干批判したためと思われる。

次に筆者が “Promotion of Family Planning in Japan, and Its Possible Implications” と題して報告したが若干の質問が出た。つまり家族計画を普及せしめるにはどうしたらよいかとか、指導するのに知識の uniformity が必要かとか、社会階層別に特別の宣伝方法があるかとか、家族計画を普及させれば、どうしても人工妊娠中絶がまん延するようだが意見いかんとか、男性はどんな犠牲と被害があるかなどとか、の質問が出た。これに対し、パキスタン人の85%は無学文盲であること、また、Urdu 語と Bengal 語と二つあることなどを知っていたので、何か適切な助言はないものかと案じたが、とっさに、テレビが今年末パキスタンに開局されるということを新聞で知ったので、さっそくこれを活用して、テレビ放送が始まれば、それによって普及は容易になると言って答えておいた。人工中絶は家族計画の最初の指導1年間は流行するが、根気よく受胎調節を指導すれば、その後は中

絶は減少するという筆者の大企業体における指導経験を語った。また日本においては、指導方法は画一的に行なわず、したがって社会階層別の特別の仕方を取らず、指導は個人指導、グループ指導によって当意即妙的に variety を持って行なうべきことを語り、この問題は男性が特に犠牲になるということではなくて男女双方、夫婦が協力して行なうべきであることを強調して答弁を終えたが、これはたいへん共鳴を受けた。

次に Karachi 大学の Mr. I. H. Qureshi が “Cultural Factors and Planned Parenthood in Pakistan” と題して報告したが、教育制度の問題と動機づけの問題を論じていたようであるが、時間ぎれのためか質問も出ず総会は終わった。引き続き study group が二つずつ持たれるのであるが、主題は次の四つ、すなわち、

- (1) Motivation of Public Opinion and Mass Communication
- (2) Government Role in an Effective Family Planning Programme
- (3) Clinical Testing of Contraceptive Methods
- (4) Cultural Patterns in Pakistan and the Problem of Population Quake

である。そして各 study group は便宜上三つの session に別れ、それぞれの session では二つ以上の sub-topics が議論されることになっていた。

参考までにその sub-topic を列挙すれば次のとおりである。

Government Role in an Effective Family Planning Programme

- a. The Role of Government (Progress and Prospects)
- b. How to Harness Medical Personnel in a Government Programme
- c. The Role of Voluntary Agencies in a Family Planning Programme
- d. Swedish Technical Assistance in the Family Planning Programme
- e. Ford Foundation Technical Assistance in the Family Planning Programme
- f. Administrative Difficulties in Implementing the Family Planning Programme
- g. Impelmentation of Government Programme

Motivation of Public Opinion and Mass Communication

- a. The Difference in the Rural viz-a-viz Urban Approach in Mass Communication
- b. Use of Volunteers
- c. The Role and Function of Group Leaders
- d. Customs and Public Opinion
- e. The Role of Basic Democracies in the Implementation of a Family Planning Programme
- f. Techniques in Practice of Mass Communication in Pakistan
- g. Group Versus Person to Person Approach
- h. Techniques of Mass Communication that Might be Useful in a Family Planning Programme

Clinical Testing of Contraceptive Methods

- a. History of and the Future Prospects for Intrauterine Devices
- b. National Intra-uterine Device Study
- c. Sterilization (male/female) An Evaluation
- d. Contraceptive Techniques Specifically Oral Contraceptives
- e. Evaluation of Contraceptive Techniques
- f. Recent Advances in Family Planning

Cultural Pakistans in Pakistan and the Problem of Population Quake

- a. Cultural Factors and the Propagation of Family Planning in the Pakistani Setting
- b. Social Research Findings in Pakistan and their Bearing on Family Planning
- c. The Need for Social Research
- d. Can we Have Social Change Through Social Research?

以上が10日から12日まで行なわれ、13日は最後の総会で、ここで再び日本の家族計画状況について最後の質問を受けることとなった。問題は日本の人工妊娠中絶が不道徳ではないかということが中心であった。特に日本政府が優生保護法で中絶を推進していることはけしからんということで、この誤解を説明するのにひと苦勞であった。だが道徳問題については単に宗教的なものばかりでなく、「目的と手段」の再吟味という哲学的な考え方も忘れてはならないことをつけ加えておいた。

だが、パキスタンは日本で言えば戦前の昭和時代、大正時代、明治時代、江戸時代を一緒にしたような国で、貧富の差ははなはだしく、容易ならぬ人口問題がそこにあるようである。パキスタンのラジオ記者がインタビューに来たが、形式だけはどんどん近代的な様相を示し、外観ばかりはいかめしいが、内容は粗末で、特に人間知能力は今後いっそう困難なるパキスタン民族の課題になるであろうことを痛感したが、なぜかインドに比べて、いまだ期待が持てそうな気持ちになったのは不思議である。(篠崎信男記)

国際家族計画連盟西太平洋地域会議

1964年5月12～15日、ホンコンにおいて「国際家族計画連盟西太平洋地域会議 (I. P. P. F. Western Pacific Regional Conference)」が開催された。これは1963年2月、シンガポールで開かれた第7回の国際家族計画会議 (Seventh International Conference on Planned Parenthood) において、韓国、台湾(未加盟)、ホンコン、および日本の4か国によって構成される西太平洋地域というブロックが正式に設けられ、昨年その第1回が日光で開催されたのに続く第2回目に当たるものである。

日本からは、古屋芳雄(日本家族計画連盟会長)、水島治夫(九州大学名誉教授)、国井長次郎(日本家族計画協会理事)、片桐為精(日本家族計画協会理事)、永野正男(日本国有鉄道東京病院)、滝沢正(厚生省児童局母子衛生課長)および本研究所の篠崎信男人口資質部長が参加した。会議の概況は次のとおりである。

「国際家族計画連盟西太平洋地域会議」の概況

1964年5月12日から15日にかけて、第2回の国際家族計画連盟 Western Pacific Regional Meeting がホンコンにおいて開催された。

出席者は、韓国から5名、日本から7名、ホンコンからは7名で、これに国際家族計画連盟事務局長である Sir Colville Deverell が加わって行なわれたのであるが、そのプログラムは次のとおりである。

5月12日	9:30～12:30	Regional Council Meeting
	14:30～16:30	Regional Council Meeting
	18:15～20:00	Medical Seminar
5月13日	9:30～12:30	Medical Committee Meeting
	14:30～16:00	Sight Seeing
	17:17～19:00	Educational Seminar
5月14日	9:30～12:30	Visiting Clinics
	14:30～20:00	Observation of Slum and others
5月15日	9:30～12:30	Regional Council Meeting
		Medical Discussion
	14:00～16:00	Discussion on Motivation Education and Social Work etc. Resolution

第1日目の地域会議は、日本の古屋芳雄博士が議長となって始められたが、議事の内容は型どおりで、あいさつ、経過報告、会計報告、本部への出席報告(韓国の梁氏)、各国の活動状況報告、Seminar および各種講習会